

# 第2学年 社会科学習指導案

日 時 平成15年 9月30日(火) 5校時  
生 徒 2年A組 男子16名 女子15名  
指 導 者 胆沢町立小山中学校  
教 諭 菊池一洋

## 1. 単元名

第3編 世界から見た日本のすがた

第1章 さまざまな面から見た日本

2 日本人々の暮らし

## 2. 単元について

### (1) 教材観

本単元は、世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を追究し、日本の国土の特色をさまざまな面から大観するとともに、地域的な特色を明らかにする学習内容を扱う。具体的には、世界的な視野から見て日本では比較的豊かな環境の中で人々が生活していることや、その生活が近代化や国際化の進展の中で伝統的な生活・文化が変容してきたこと、外国から流入した生活・文化は日本の環境条件に対応させながら取り入れてきたことなどの特色を理解させるとともに、国内では生活・文化の地域による違いが少なくなっているが、一方で全国各地に特色ある生活・文化が見られることを大観させる。

以上のように本単元では、各地域の地誌的な学習にとどまらず、地域的な特色をもとに世界的な視野で日本全体の生活・文化をとらえることが必要であり、その上での視点・方法を身につけることが要求される。よって、本単元の指導にあたっては、日本の生活・文化の特色について、独自性を持つ地域や郷土を取り上げ、考え方や学習方法を意識的に学ばせながら理解させるとともに、世界の国々と比較させながら日本全体の特色をとらえさせていきたい。

### (2) 生徒観

課題に意欲的に取り組み、まじめな雰囲気のある学級である。論理的な思考力が高い生徒が、疑問を教師側に積極的にぶつけてくることがある一方、あまり授業に集中できず、内容をほとんど理解できない生徒も数名いる。また、「体験的な学習」「問題解決的な学習」を行う場面が不足したことなどにより、社会科の学習が用語の理解にとどまり、その背景や詳しい内容、その影響、地図中での位置などと関連付けながら考えることが難しい生徒が多い。さらに、発表力という点でも用語の発表はできるものの全体の中でそれ以上の内容の発言ができる生徒は少ない。よって、個別学習とグループ学習、全体学習をバランス良く組み合わせながら、授業への集中力を高めるとともに、導入を工夫し、全体学習の際は使用する資料をより吟味するなどして、考えやすく、発言しやすい雰囲気作りに努めたい。

### (3) 指導観

学習指導要領では「基礎・基本を重視した学習」「問題解決的な学習」「体験的な学習」「学び方を学ぶ学習」などを実施することが示されている。よって本時では、その主旨と生徒の実態を踏まえて「学び方を学ぶ学習」を中心に、「問題解決的な学習」を意識しながら学習活動を行わせたい。

1時間の学習時間の中で、(課題の把握)⇒(個人・グループ調査)⇒(発表・質疑)⇒(考察)⇒(課題の解決)⇒(まとめ)という基本的な流れを学ばせ、前時の授業に引き続いて同じ展開で授業を行うことにより、学習方法の定着を図っていきたい。一連の活動を1時間で行うことにより、それぞれの段階の内容が薄くなってしまいうことも懸念されるが、時間内に調査・考察が可能な課題に絞って行わせたい。

### 3. 単元の指導目標

- (1) 世界的な視野に立って、日本の生活・文化の特色をつかませるとともに、近代化や国際化の進展により、伝統的な生活・文化が変容していることを理解させる。
- (2) 日本国内では生活・文化の地域差が少なくなる一方で、各地に特色ある文化が見られることを大観させる。

### 4. 指導計画及び評価計画

学習内容	評価規準	観点	判断基準		
			A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	「C：努力を要する」と判断された生徒への支援
豊かさと暮らし (1時間)	日本の生活・文化の特色を明らかにするため、食生活の変化や住宅環境の変化、習慣の変化などの様子を積極的に調べようとする。	社会的事象への関心・意欲・態度	日本の食生活や住環境変化を示す資料を収集するために、親や祖父母への聞き取りに加えて、文献資料、新聞資料、インターネットなどを利用しようとする。	日本の食生活や住環境変化を調べるために、親や祖父母への聞き取りを行うことができる。	日本の食生活や住環境変化に関係するクイズを出題し、家族への聞き取りや文献資料、新聞資料、インターネットなどを利用しようとする意欲付けを行う。
くらしの変化と進む国際化 (1時間)	日本の生活・文化の特色を諸外国と比較したり、近代化や国際化の視点から理解したりする。	社会的事象についての知識・理解	日本の生活文化の特色を外国と比較してとらえ、日本の伝統文化の中に欧米の生活様式が影響を与えていることを具体例をあげて3つ以上説明できる。	日本の生活文化の特色を外国と比較してとらえ、日本の伝統文化の中に欧米の生活様式が影響を与えていることを具体例をあげて説明できる。	授業のノートなどを利用して、個別に学習内容を再度整理させ、日本の伝統文化の中に欧米の生活様式が影響を与えている具体例を書かせる。

古都・京都に見る生活文化 (1時間)	京都の生活・文化について考え、話し合い、資料を使って調べている。	資料活用の技能・表現	京都の独特な生活・文化の特徴について教科書・資料集等を使って調べ、正しくわかりやすくまとめることができる。	京都の独特な生活・文化の特徴について資料集等を使って調べ、正しくまとめることができる。	個別に、調べる資料の探し方を指導し、適切な資料を見つけさせるとともに、再度調べた内容を書かせる。
	京都の生活・文化の特徴から、その独自性について理解し、理由を考察している。	社会的な思考・判断	京都の独特な生活・文化の特徴について、歴史的背景に加えて、近代的な都市と歴史的な都市の調和という視点を加えて説明することができる。	京都の独特な生活・文化の特徴について、歴史的背景を中心に説明することができる。	思考・判断の発展につながる資料を意図的に準備して、京都の生活・文化の独自性について考えやすいように配慮する。
独自の生活文化を持つ沖縄 (1時間) [本時]	沖縄の生活・文化について考え、話し合い、資料を使って調べている。	資料活用の技能・表現	沖縄の独特な生活・文化の特徴について教科書・資料集等を使って調べ、正しくわかりやすくまとめることができる。	沖縄の独特な生活・文化の特徴について資料集等を使って調べ、正しくまとめることができる。	個別に、調べる資料の探し方を指導し、適切な資料を見つけさせるとともに、再度調べた内容を書かせる。
	沖縄の生活・文化の特徴から、その独自性について考察している。	社会的な思考・判断	沖縄の独特な生活・文化の特徴について、「亜熱帯の自然との共生」「地理的条件によるアジア諸国とのつながりの深さ」「歴史や民族の独自性」「アメリカとの関係」のいずれか複数の観点で説明することができる。	沖縄の独特な生活・文化の特徴について、「亜熱帯の自然との共生」「地理的条件によるアジア諸国とのつながりの深さ」「歴史や民族の独自性」「アメリカとの関係」のいずれかの観点で説明することができる。	思考・判断の発展につながる資料を意図的に準備して、沖縄の生活・文化の独自性について考えやすいように配慮する。

郷土の生活文化 を考える (1時間)	日本の生活・文化の特色を明らかにするため、郷土の生活・文化と関連付けたりしながら調べようとする。	社会的事象への 関心・意欲・態度	郷土の生活・文化の特色を示す資料を収集するために、親や祖父母への聞き取りに加えて、文献資料、広報、公民館などを利用しようとする。	日本の食生活や住環境変化を調べるために、親や祖父母への聞き取りを行うことができる。	郷土の生活・文化に関係するもので、全国で紹介できるものを探す活動を行わせ、聞き取りや文献資料、広報、公民館などを利用しようとする意欲付けを行う。
--------------------------	--	---------------------	--	---	--

## 5. 本時の指導

### (1) 教材名

「独自の生活文化を持つ沖縄」

### (2) 本時の目標

- ①「沖縄の生活・文化」について考え、話し合い、資料を使って調べることができる。
- ②「沖縄の生活・文化」が全国に発信されていることに関心を持ち、その独自性について考えることができる。

### (3) 展開

段階	学習内容	生徒の活動	指導形態	教師の支援 評価	資料
導入	1. 学習課題の設定	(1) 沖縄らしい唄を聞き、感想を発表する。  (2) 今日の学習課題を設定する。  <b>学習課題</b> 沖縄は、なぜ独自の生活・文化を持っているのだろうか？	一斉  一斉	・沖縄の独特なイメージをふくらませ、本時の学習意欲を持たせる。(あまり深入りしない)  ・全国に発信されている沖縄の独特な生活・文化について調べてみようとする意欲を持たせる。	・沖縄の唄 ・実物資料など ・沖縄の地図
展開	2. 学習課題の解決	(1) 複数の資料の中から、沖縄の生活・文化に関係の深いものを選択し、それぞれ何の資料であるか考える。	全体 個人	・全体で資料を吟味した後、個人で何の資料かを考えさせる。 ・学習プリント(記入用紙)を用意する。 ・発表用紙に選んだ資料を貼り付けられるようにする。	・沖縄の資料 「2000円札」 「沖縄料理」 「琉球舞踊」 「アメリカ軍基地」 「さんご礁の海とリゾートホテル」 「椰子の実ジュース」 「沖縄の方言」 「住宅とシーサー」 など ・資料 ・教科書
		(2) グループごとに沖縄の生活・文化の資料について調べる。 ① 資料の中から、班で1つを選び、全体で発表できるような内容を調べる。 ② 調べたことを個人でプリントに記入するとともに、発表用の画用紙に記入する。 ③ 発表者を決める。 ④ 時間があるときには、その資料について、なぜそのような独自の生活・文化を持っているのかを考えておく。	グループ 個人	・調べさせるための資料を用意しておく。 ・机間巡視をしながら援助を行う。ただし、できるだけ自分たちの力で話し合わせるようにする。  <b>☆評価(資料活用)の技能表現</b> 沖縄の生活・文化について考え、話し合い、資料を使って調べることができる。 B 沖縄の独特な生活・文化の特徴について資料集等を使って調べ、わかりやすくまとめている。	
		(3) グループの代表が簡単に発表を行い、質問・意見を出し合う。 <発表内容> ・資料の名前 ・資料の簡単な説明 ・胆沢町の生活・文化と比べてみて、何か気づいたこと	一斉	・発表資料を黒板に貼り出す。 ・発表された内容に対して、教師側の講評や補足を行う。 ・それぞれのグループの発表内容を生かし、関連付けながら、沖縄の生活・文化の独自性について考えさせたい。	
		(4) 沖縄がなぜ独自の生活・文化を持っているのか考える。	一斉	・発展資料を準備して、沖縄の生活・文化の独自性について考えやすいように配慮する。  <b>☆評価(思考・判断)</b> 沖縄の生活・文化の特徴から、その独自性について理解し、理由を考察している。 B 沖縄の独特な生活・文化の特徴について、「亜熱帯の自然との共生」「地理的条件によるアジア諸国とのつながりの深さ」「歴史や民族の独自性」「アメリカとの関係」のいずれかの観点で説明している。	
終末	3. まとめ	今日の学習課題について、自分が学び考えた内容を書く。	個人 一斉	・学習プリントに記入させ、本時の学習内容を整理させる。 ・数人に発表させる。	・まとめプリント
	4. 次時の課題の確認	次時の内容を確認する。  <b>学習課題</b> 胆沢町や岩手県から全国にどのような生活・文化を発信できるだろうか？	一斉		